

# 会報

日本福音ルーテル東京池袋教会

〒171-0014 豊島区池袋3-7-1

☎3984-3853 ikejelc@a.toshima.ne.jp

<http://www.jelc-ikebukuro.org/>

2017-2号

発行日 2017年 6月25日



牧師 青田 勇

今回はローラ・インガルス・ワイルダー作『大草原の小さな家』の中にある「クリークを渡って」を紹介します。

この本の著者ローラ・インガルス・ワイルダーは、アメリカの南北戦争が終わった2年後の、1867年にアメリカのウィスコンシン州の小さな丸太小屋で生まれました。日本で言えば、ちょうど明治維新の頃で

す。クリスチャンであるお父さんと、お母さん、姉のメアリー、それに妹のキャリーの一家5人家族の物語です。

この物語は家族の旅がつづられています。最初に一家は、幌馬車で、約1000キロ南に下ったカンザス州のインディアン居住地に行きますが、そこでも1年後にインディアンに追われ、その地を離れます。さらに、そこからローラが小学校に入った頃でしょう、ミネソタ州のプラム・クリークの土手に作られた横穴の家に住みつくのです。でも、イナゴの大群に秋の収穫がやられたり、大吹雪にみまわれ、その地を去らざるを得なくなります。そして、サウス・ダコタ州のシルバー・レイクにある払い下げ農地、クレイムの開拓に携わるのです。開拓者として、サウス・ダコタ州の大草原にやっと落ち着くまでの波乱の家族の旅が語られています。

この本の中で、決定的なシーンが一つあります。それは家族が新しい新天地を求めて、馬車で大きな河であるクリークを渡る場所です。父親が馬車の手綱を引き、母親と子供は幌を固く縛った馬車の中で身を寄せ合って、不安の中でクリークを渡る場面があります。その場面がこのように描かれています。

「しばらく進むあいだは、馬車の後ろに、赤土の高いがけが、切り立っていました。けれど、ペットとパティーが足を止めてクリークの水を飲むときには、がけは、丘と木々に水のゴォーと流れる音が、あたりにとどろいていました。岸に沿って茂っている木

が、かげ枝をたれ、水面に暗い影を作っていました。流れの中ほどは、すごい速さで、水しぶきが、銀色や青にきらきらと光っていました。」

、「母さんが、両手にしっかり手綱をにぎって、一人腰かけていました。メアリーは、また毛布にもぐりこみましたが、ローラは、前に乗り出しました。土手は、見えません。押し寄せてくる水のほかは、前には何にも見えません。水の中に、三つの頭がありました。ペットの頭とパティの頭と、父さんのぬれた小さな頭と。水の中で父さんのこぶしは、ペットのくつわを、しっかりとぎっていました。ローラには、水の音を通して、父さんの声が、かすかに聞こえました。それは、落ち着いて元気な声でしたが、何を言っているのか聞きとれません。父さんは、二頭の馬に、話しているのです。母さんの顔は、青ざめて、おびえていました。」

クリークを渡る家族は4人だけではありません。それに犬がいるのです。家族の一員である犬は、馬車に乗らずに自分の力で泳ぎ馬車を追ってくるのです。彼らが渡ろうとしている河は深いのです。馬の足もたたない深さです。父親は母親に手綱を渡し、自分は河に飛び込み、泳いでいる馬の鼻面をとって誘導するのです。母親はおびえて泣き叫ぶ子供をしかり、静かにさせ、馬を操るのです。

息がつまるほどの緊迫したシーンが伝わる場面です。そして、やっとのことで河を渡るのです。恐怖の中を家族が一緒に力を合わせて、河を渡りきった喜びは大きいのです。でも、その喜びの中で、彼らは自分たちの家族の一員である愛犬がいなくなっていることに気づくのです。喜びの中で彼らは悲しみの中に突き落とされるのです。その悲しみに打ちひしがれて、そこにただ佇んでいるわけにはいかないのです。明日に向けて前に、彼らは進まなければならないのです。悲しみの感傷に浸る時は許されていないのです。けれども、後で実は犬が追いかけて来て、一同は感激の対面をするのです。

この物語のポイントは、家族して一家をあげて危険な河を渡ることが人生の中ではあるということをお話しています。大きな困難に直面した時に、家族がばらばらになるのではなく、それぞれの力を合わせて生きていくすばらしさがここに語られています。共に力を合わせて、相応の協力が生まれていくなれば、それなりに危機は脱出できるのです。

私たちの人生には、必ず一度や二度、共に力を合わせて、人生の「大きな河を渡る」経験をしなければならないことがあります。それは子供が新しい学校に入ることもそうです。また、就職、結婚、それに家族のだれかが病気になったり、または夫が単身赴任をしたり、想定外の事故に会った時、相手が老年期を迎えた時、または地上の同伴者である者が召された時など、またそれ以外に、目に見える形をとらなくても大事な節目の時が色々あるのです。そのような時、大事なことは、同じ心の絆で結ばれている家族が、自分たちは今、人生の「河を渡るんだ」という自覚が求められるのです。そのようなちゃんとした自覚があれば、各自がそれなりに力を合わせる姿がはっきりしてくるし、危

険と思われた「河を渡る」ことをそれなりにできるし、そこからまた新しい関係が相互に生まれてくるのです。

## 教会の主な集会・行事予定

- ◆ 6月25日(日) 礼拝、 城北地区聖壇交換(説教交換)
- ◆ 7月 2日(日) 礼拝後、 信徒会
- ◆ 7月 9日(日) 礼拝後 定例役員会
- ◆ 7月11日(火)午前11時 故今井兄納骨式、多磨霊園
- ◆ 7月12日(水)午後2時 聖書の学び
- ◆ 7月16日(日) 礼拝後 婦人会、特別講座  
「ザビエル・キリシタン・隠れキリシタンの信仰と歴史」  
第2回「キリシタン大名とキリシタン禁令」
- ◆ 7月18日(火)午前11時 婦人の聖書会
- ◆ 7月23日(日) 礼拝後、 バザー委員会
- ◆ 7月30日(日) 礼拝後 婦人感謝デー
- ◆ 8月 —— 一ヶ月は諸集会をお休みします——
- ◆ 9月10日(日) 礼拝後 定例役員会
- ◆ 9月13日(水)午後2時、 聖書の学び
- ◆ 9月17日(日) 礼拝、 敬老の日を覚えて、  
礼拝後、 婦人会、特別講座  
「ザビエル・キリシタン信仰・隠れキリシタンの信仰と歴史」  
第3回「キリシタン復活と遠藤周作『沈黙』」
- ◆ 10月 8日(日) 礼拝後、 定例役員会
- ◆ 10月15日(日) 礼拝後、 教会バザー